

新聞で学ぼう



広がるNIE

NIE（新聞を活用した授業）の実践に取り組んでいる関西大学北陽中学校（大阪市東淀川区）の生徒約80人が8日、大阪市浪速区の産経新聞大阪本社を訪れ、新聞作りの現場を見学した。

編集の現場「大変さ」実感

関大北陽中生80人 本社見学



見出しのつけ方などの説明を受ける関西大学北陽中学校の生徒ら（大阪市浪速区の産経新聞大阪本社（渡辺恭晃撮影））

同校では、2年生の総合学習の時間を使ってNIEを実施。これまでに、本紙の社員が出前授業を行った。生徒が実際に取材をして新聞を作ったりするなどの実践教育を行っている。

この日は4班に分かれて編集局内の各部署を回り、記事に見出しをつけてレイアウトする整理部や、記事などに誤りがないかをチェックする校閲部などを見学。ベテラン記者の説明に聞き入り、写真報道局のカメラマンが使用する超望遠レンズカメラに興味深そうに見入っていた。

生徒らは、最新ニュースが次々に飛び込んでくる編集局内の雰囲気緊張した様子で、伊藤愛珠さん（14）

は「毎日締め切り時間がある大変な仕事だとわかった。明日からは、もっとしっかり新聞を読みたい」と感心した表情を見せた。校閲部での説明を熱心に聞いていた松崎怜生さん（13）は「わかりやすい記事にするために、たくさん工夫がされていることがわかった」と話していた。